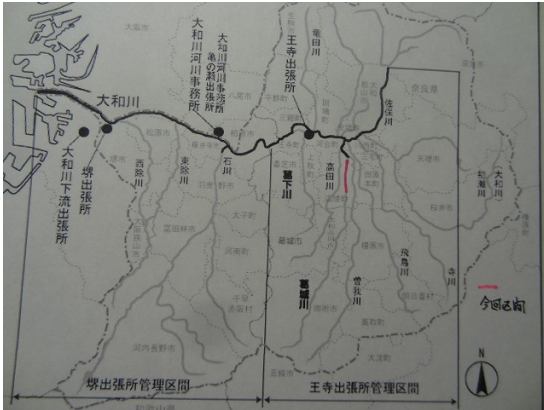


日本あちこち河川遡行記（第279回）

奈良1-6-2. 葛城川（その1） 令和1年8月2日（金）



01.今回調査区間位置図

次に目指す川は大和川の二次支流の「葛城川」だ。その名の通り「葛城山」と「金剛山」の東麓から北に流れ「曽我川」に合流し直ぐに大和川と一緒に長さ23キロの川である。

土手沿いにはコンビニも食べ物屋も無く、酷暑の中持ち歩く弁当類も危ないので王寺駅のモスバーガーで早めの昼を摂っておく。11時3分近鉄田原本線「箸尾」駅に降り立つ。ホームに降りると蒸し風呂に放り込まれたようになる人口3万人以上の「広陵町」の町内で駅はここだけである。町の北の端に駅が有る。玄関駅なので駅前には町のマスコットキャラクターの「かぐやちゃん」がお出迎え。その横の絵地図は町の中心部に向かうように南が上の逆表示になっている。



02.近鉄箸尾駅前の「かぐやちゃん」



03.南が上になっている広陵町絵地図

盆地特有の風の無い酷暑が出迎えてくれる。川の土手に向かうと直ぐに汗がどっと吹き出し、その流れは止まらない。これは今までとは次元の異なる暑さ

である。今日の遡行は4つの案を考えておいた。甲案：近鉄南大阪線「浮孔」駅までの9.5km、乙案：JR桜井線「金橋」駅までの8.0km、丙案：近鉄大阪線「松塚」駅までの6.7km、そして最悪の場合の丁案：広陵町役場までの4.7kmである。昭和16年の日米交渉では甲案と乙案が用意されていたが、今日は甲から丁まで用意してきたぞ。

最下流に架かる「桜橋」は曾我川遡行時に調査済みなので二番目の橋から開始する。土手に上がる坂道を日傘をさしてゆっくりと登る。土手に木々は無くアスファルトからの照り返しはきつい。持参の「熱中症計」で測ると36度を超え、その危険度は最悪の「危険」になっている。こりゃーおえりゃーせん！



04.気温36度越え、熱中症の危険度は「危険！」を表示

4本の川が東西に並んだ川の西から二番目の土手を南に向かう。曾我川と高田川に挟まれた三度目の遡行はまるで同じ川を歩いているような感じで、周りの景色も同じである。彼方の山並みは暑さでぼやけている。

左岸側は「明日香大和郡山自転車」が土手道に併設されているが、今日は行きかう自転車は無し！無風の状態で100m歩けば立ち止まり噴き出る汗を腰タオルで拭き、300mほど歩くと大きな水筒から麦茶を飲み塩を嘗める。これの繰り返しで暑中行進を続ける。こりゃ甲はとて無理で乙も丙もだめだ。最悪の場合の丁案にせざるを得ない。

途中ゴルフ練習場が土手下に有ったので立ち寄り暫し休憩する。日陰の有難さが際立つ。ゴルフ練習場はこれで二度目だ。地獄と天国を経験し県道112号の「奥坪橋」を見て県道を西に向かう。500mほど歩くと大きな役場に到着！



05.広陵町役場に退避



06.役場前のコミバス停

役場前のバス停でコミバス「元気号」の時刻表を確認し中へ入る。15分ほど役場内の椅子に座り冷を摂る。

広陵町は靴下と「ポイ」の生産日本一で、その品物が展示されている。「ポイ」とは何じゃいなと見ると夜店で見かける金魚すくいのすくい紙のことである。大和郡山とタッグを組んでいるな。



07.町は靴下とポイの生産日本一、ポイとは何じゃ？

時刻になったので外に出ると派手なミニバスが先ずやって来た。中央幹線バスで、その後二台のワゴン車が続いて到着。役場前で乗り継ぎが出来るダイヤで連合艦隊が勢ぞろいである。13時18分発は北東部支線の左回りの近鉄高田駅行きで後の車である。人口3万人越えの町に奈良交通は団地のある西部だけに路線が有るだけなのでコミバスは充実している。

役場で元気をもらい「元気号」に100円払って高田駅に向かう。乗客は5名

とまずまずの乗りである。



08.先ず来た派手なバスは中央幹線バス 09.続けて2台のワゴン車の後ろが高田駅行き

帰りのこだままで十分時間が有るので高田駅前のミスタードーナツで冷を摂り、難波駅から高島屋に向かい店内をうろうろする。北陸名産の「白バイ貝」と「白エビ」が有ったのでお買い上げ。大阪駅東口の「イカリ」が店内改装で休店中なので難波店に立ち寄る。大阪駅店よりも広くゆったりとしているが客数は少ない。地獄を経験してきたので冷房の効いた都市のビル内は天国だ。

本日の歩行距離：4.7km。調査した橋の数：11。

総歩行距離：10,512.9km。総調査橋数：13,476。

使用した1/25,000地形図：「桜井」（和歌山1号-4）